

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602778	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	社会福祉法人 愛翁会		
事業所名	ななかまど		
所在地	(〒252-0137) 相模原市緑区二本松3-8-15		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年12月23日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化とそれに伴う重度化により、屋内外を問わず移動手段に車椅子を利用される方がほとんどの状態になってしまった。しかし、この様な状況でも、可能な限り外出する機会を設けたり、ゲームや体操等のレクリエーション活動への参加を促し、日々楽しめる時間を過ごしてもらえるように努力をしている。
日常的にゆったりした時の流れの中、各個人の体力や体調・能力に合わせたケアを行っていきように心がけている。
今後予想される看取りケアについても、希望される入居者ご本人やご家族も増えており、その想いに応えられるように職員のスキルアップに努めていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年1月15日	評価機関 評価決定日	令和3年3月19日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、JR横浜線橋本駅からバスで約7分、バス停から徒歩8分程の静かな住宅街にある。周囲に商店街、スーパーマーケット、公園等が点在している。鉄骨造り2階建ての建物の2階が当事業所で、1階に同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。新型コロナ禍で本年は中断しているが、例年は、運営推進会議や防災訓練、納涼祭などの季節行事を併設の事業所と合同で行い、協力関係を築いている。近隣の同一法人の保育園からバザーや運動会に招待される等、園児たちと交流しやすい環境にある。

【利用者家族などの意見の反映】
毎月、事業所全体のたよりである「ななかまど便り」と利用者ごとに個別のたよりを発行し、事業所の様子を家族等に知らせている。家族の意見は、来訪時や年4回開催の家族会等で聞いている。現在は、新型コロナ感染防止のため、時間を15分にする等の対策をして面会を実施している。「現在15分になっている面会時間を延長してほしい」等の意見を把握している。時間の延長は受け入れ難いため、リモート面会の実施に向けて、環境設備を整えている。

【思いや意向を把握した支援】
利用開始時のアセスメントや日々の関わりの中で利用者や家族から思いを聞いている。「お酒が好き」な方のために、月3回「ビールの日(5,15,25日)」を設けノンアルコールビールを提供するなど、利用者の思いを把握して支援している。意向の把握が困難な場合は、職員との会話が成立していたころに把握した意向を基に、表情や語気の強さ等で推し測り検討している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームななかまど
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・掲示しながら、食事等で旬や季節のものを取り入れている。	「どんなときもあなたのすべてを受け入れ、決して自由を奪いません。」「四季折々の外出やイベントを楽しんでいただきます。」「あなたが安心できるあたたかい場所と、おいしい食事を提供します。」など、7項目の独自の理念を掲げ、事業所内に掲示し共有している。旬の食材や利用者の好みも採り入れた食事の提供などを念頭に置き、利用者の気持ちを尊重したサービスの提供を目指し、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・今年新型コロナウイルスの影響で自粛しているが、買い物や地域清掃などには参加している	二本松町内会に加入し、地域清掃や祭りなどの行事に参加している。防災マイスターの資格を持つ管理者が、防災協会が主催する防災研修の講師として市内の小中学校などを訪問している。新型コロナ感染予防のため、高校・各種専門学校の実習や傾聴ボランティアの受け入れ、保育園の催しへの参加を中断している。整髪ボランティアのみ来訪し、みだしなみに配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・HPや掲示板を利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・新型コロナウイルスの影響で、書類報告が増えたが実施して、アドバイスをもらっている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、概ね2カ月に1度開催している。参加メンバーは、相原高齢者支援センター職員、老人会の代表、町内会副会長、民生委員、地区の男性ボランティア代表、近隣の住民、両事業所の利用者家族と管理者である。事業所の活動状況報告や虐待予防について等の意見交換をしている。身体拘束廃止に関する事も話し合っている。新型コロナウイルス感染予防で、本年度第3回以降の会議は、書面開催としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・業界団体等を通じて連絡を取っているが、今年は新型コロナウイルスもあり、少ない。	緑高齢・障害者相談課の職員とは、外部評価結果の報告や運営推進会議の議事録を持参するなどして協力関係を築くよう努めている。生活保護費を受給している利用者があり、担当職員には、書面や電話でのやり取りを通して実情を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施錠は夜間のみとし、会議等でも日々の振り返りを行っている。	日中、玄関の扉は、開錠している。外に出たいそぶりが見られた際は、利用者の特徴などを把握して、仕事を依頼したり、職員と玄関に行くなどして気分転換を促す支援をしている。身体拘束廃止に関する事は、運営推進会議の中で取り上げ話し合っている。身体拘束の対象となる具体的な行為などについて、個々にオンライン研修を受講し、グループホーム会議で身体拘束をしないケアの確認をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・チェック表などを使い、会議等で話し合いなどを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・オンライン研修などを利用しながら、職員同士で話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・毎回十分な時間をかけて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情相談窓口や日頃からのコミュニケーション、家族会や運営推進会議などを活用している。	毎月「ななかまど便り」と個別のたよりを配布して、事業所の様子を家族などに知らせている。家族の意見は、来訪時や年4回開催の家族会などで聞いている。 「新型コロナ感染防止で15分になっている面会時間を延長してほしい」などの意見を把握している。時間の延長は受け入れ難いため、現在、リモート面会の実施に向けて環境設備を整えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回面談を実施、会議等でも情報共有を行っている。	毎月開催しているグループホーム会議や年2回実施している個人面談で職員の意見や提案を吸い上げ、シフト変更などに反映している。褥瘡になりやすい方のエアーマットの継続使用の可否について職員の意見を検討した。検討の結果、新しい物を購入する事とシケアにも活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	オンライン研修やキャリアパス制度の運用をしている。 ・人手不足解消や定時退勤等努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・オンライン研修を利用しながら、必要に応じてアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・積極的に参加に努めているが、今年は新型コロナウイルスの影響で、開催されず。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に聞き取り調査を行い、入居後も必要に応じて記録を残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に聞き取り調査を行い、入居後も必要に応じて記録を残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・画一的なサービスを提供するのではなく、個々人に合わせて見極めながら提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・掃除や洗濯物たたみなど可能な限り一緒に行い手伝ってもらっているようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入居初期から協力してもらい、新型コロナウイルス禍でも可能な限り面会など支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・新型コロナウイルスの影響もあり、人数等多少の制限は設けているが、基本的には可能。	兄弟や以前居住していた近所の方が来訪したり、家族と墓参りに出かけている。馴染みの関係が途切れないよう、電話を希望する方には、取次ぎをしている。乳酸菌飲料を飲む方やぬり絵を楽しむ方の入居前からの生活習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の性格などを考慮し、席の配置などを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・手紙等広報誌などで情報交換してる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人やご家族からの聞き取りや、日々の行動や発言などから一人一人に合った生活をしてもらえるように支援している。	利用開始時のアセスメントや日々の関わりの中で利用者や家族から思いや意向を聞いている。「お酒が好き」など、利用者の思いを把握して、毎月「ビールの日（5、15、25日）」を設けてノンアルコールビールを提供している。意向の把握が困難な場合は、利用者や職員との会話が成り立っていた時期に把握した事を基に語気の強さなどで推し測り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人やご家族からの聞き取りをもとに、情報の把握、会議等で職員間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の意見も尊重しながら対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的にモニタリングや会議を行い、結果をご家族にも報告している。	家族や医師などからの意見も反映し、概ね短期目標3ヵ月、長期目標1年の介護計画書を作成している。職員3名が利用者3名のケースを担当し、モニタリングを行い評価した後、カンファレンスで検討している。3ヵ月ごとにモニタリングを行い、変化があればその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別に記録を残し、連絡ノートや会議等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用可能な外部サービスの使用を支援（訪問マッサージなど）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・新型コロナウイルスの影響で、今年は最小限（カットボランティア・傾聴）にとどめている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の往診や24時間対応のオンコール体制、外来受診時の支援を行っている。	かかりつけ医の選択は自由だが、利用者全員が協力医療機関の内科医の往診を月2回受けている。階下の小規模多機能型居宅介護に従事している看護師が、週1回来訪して健康管理をしている。歯科医は、必要に応じて来訪し、希望者の治療をしている。眼科など専門医への受診は、原則、家族が対応し、受診後に結果を聞き取り、個人記録に転記し内容を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・24時間のオンコール体制や情報共有により支援。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・最近はないが、入退院時にはSMWなどと積極的に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時にも話し合いを行い、必要に応じてマニュアルなどを活用し、その場の状況や希望に応じて対応している。	入所契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」で事業所の方針を家族などに説明し同意を得て共有している。利用者の状態変化に伴い、協力医が家族に状況を説明した後、管理者が加わって看取りについて意向を再確認している。この数年に2名の看取りを経験している。実施に際しては、マニュアルを活用して家族などの希望に応じた対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成し、常に見ることが出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアルを作成し、常に見ることが出来るようにしてあり、年2回の訓練も定期的に行っている。	ハザードマップで、水害などの災害リスクに遭遇しにくい立地であることを確認している。夜間を想定した火災訓練を主に、階下の事業所と合同で行っている。非常時に対応できるよう、事業所内にある米が10kgに減ったら20kgまで補充するなど、日常から食品のローリングストックを実施している。ミネラルウォーターを3～5日分準備して1年半ごとに入れ替えている。カセットコンロやサバイバルシート、懐中電灯などを準備している。	災害時に、職員誰もが日用品など災害時の備品の準備状況を把握しすぐに対応できるよう、可視化する等して災害に備えることを期待します。また、地震を想定した訓練も取り入れ、家具や電化製品などの転倒防止策の再確認をすることを望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・基本的には敬語で対応し、声のトーンやスピードにも気を付けて対応している。	入浴する際は脱衣所に担当職員以外は入室しない等、利用者の羞恥心などに配慮している。利用者の希望で、なじんだニックネームを使う方もいるが、呼称は「さん」付けすることを基本にしている。業務日誌やチェックシートなどの記録表示や業務連絡では利用者名は使わずイニシャルを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・飲食など個々の能力に応じて、聞き取りをしながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・すべては無理でも、入浴など可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洋服選びなど、可能な人には行ってもらえるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・全員ではないが可能な人には、食事前後の手伝いをしてもらったり、ビールの日などを設けて楽しんでもらっている。	利用者の希望も配慮した献立を職員が作成し、調理し提供している。利用者の状態に合わせて刻み食などを提供している。利用者は、食器拭きや野菜の皮むきなどを行い食事に関わっている。正月のおせち料理、好みのラーメン、誕生日のケーキ、季節の行事に合わせた七草がゆなどを提供し食事を楽しめるようにしている。毎月「ビールの日（5, 15, 25日）」を設けてノンアルコールビールを嗜む方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々に合わせて、飲食の量を調節し同時に記録にも残すようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・うがいや口腔ケア、義歯の洗浄や管理など個々の能力に合わせて毎食後実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・チェックシートを活用し、パターンの把握をしながらも、トイレでの排泄支援を積極的に行っている。	利用者の排泄リズムを職員が「チェックシート」で把握し、トイレでの排泄を促している。リズムを把握する事で、利用開始時はおむつを使用していた方が、リハビリパンツの使用に改善した事例がある。夜間は不安解消のため、吸収力のあるパットに変える方など、一人ひとりの力に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・薬だけに頼ることなく、乳製品等の積極的な摂取やマッサージを行うなどして自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴可能な時間はあるが、本人の希望を聞くなどしてタイミングを計り、菖蒲湯等で季節を感じてもらえるよう支援している。	概ね週2回入浴している。脱衣に関して羞恥心のある方の同性介助の希望に応じている。入浴を好まない方には、声かけの際に、職員や時間を変えたり、「医師が処方している塗り薬をつけるので」等と誘い入浴している。鼻歌を唄い入浴を楽しんでいる方がいる。ゆず湯や菖蒲湯で季節を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・温度や湿度の管理、TVや照明などの調整を行いながら、必要であれば中でも静養を薦めるなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬情をもとに、複数人で間違いがないかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節ごとの行事やビールの日などを設けて、気分転換や楽しんでもらえるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・今年は新型コロナウイルスの影響で、庭先に出て季節を感じてもらおう程度にとどめている。	日常的に近隣の公園などへ散歩に出かけていたが、現在は新型コロナ感染防止のため、1階の庭先で外気浴をしている。年間の「行事予定」を作成し、例年は桜や梅、アジサイの花見や日帰りバス旅行などに出かけていたが、新型コロナ禍で中止しており、体操や家事の手伝いを積極的に促し、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理可能な方やお金を持つことにより安心できる人には持ってもらおうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・回数は少ないが、希望があれば電話をかけるなど支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・写真や壁などの飾りつけで季節を感じてもらい、加湿器などで環境にも配慮している。	リビングは、エアコンや加湿器等を設置して温湿度管理をしている。年4回の床のワックスがけや日に2回の清掃などを職員が行い清潔を保っている。クリスマスや端午の節句などには、リビングの壁にタペストリーで装飾したり、正月には、松飾や鏡餅を飾る等して、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・セミパブリックな部分にソファなどを置くなどして、居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用している家具等を持ち込んでいただき、愛用品や写真などを飾ってもらっている。	事業所が備えたベッド、エアコン、照明器具、収納庫がある。使い慣れた家具や仏壇、テレビ、鏡、写真、時計、旅行先の土産品、利用者が入居前に制作した物など、思いおもいの物を持ち込んでいる。所持品について「本人が使用していた物、愛着のあるお気に入りだった物、思い出の品と一緒にご入居ください」と重要事項説明書に掲載している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・基本バリアフリーで、表札やトイレの案内などを用いて、出来るだけ自立した生活を送ることが出来るようにしている。		

目 標 達 成 計 画



事業所名 グループホームななかまど
 作成日 令和3年3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	・家具や電化製品の転倒防止器具の利用や備蓄食料の保管場所や数量がわかるようになっていない。	・転倒器具等を使用する。 ・備蓄食料の保管場所や数量のリストアップとリストの作成。	・転倒防止器具の設置。 ・備蓄食料の保管場所と最低限の量がわかるようにリストを作成し可視化する。	12か月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。